

柴田秀利 ジャーナリスト、実業家。日米にまたがる人脈を駆使し、テレビ導入、原子力利用に重要な役割を果たした。

しばたひでとし

ロシア革命 - 1917 = ベアードがロンドンからアメリカへ映像伝送実験をした年、愛知県東春日井郡瀬戸町で生まれる。

原敬首相暗殺 1921 = 4歳 :

治安維持法・1925 = 8歳 : 東京放送局(のちのNHK)で、日本初のラジオ放送開始され、
日本時代始・1926 = **9歳** : 高柳健次郎がブラウン管による電送・受像に世界で初めて成功。
金融恐慌・1927 = 10歳 : アメリカで、FRC(連邦無線委員会)が設立される。

満州事変 - 1931 = 14歳 : CBSがテレビ実験局放送開始した年、**早くもゴルフを始める(名古屋ゴルフ倶楽部)**。

帝人疑獄事件 1934 = 17歳 : FRCに代わるFCC(連邦通信委員会)が設立される。
芥川直木賞始 1935 = **18歳** : 愛知県立明倫中学校を卒業。名古屋市大曾根の陶器絵付工場に住み込みで働くが、病気でやめ、
二二六事件・1936 = 19歳 : イギリスで高精度のテレビジョン放送開始。**青山学院大学英文学科入学**、
日中戦争始・1937 = 20歳 : 久米正雄を会長、岸田国士を副会長とする全日本学生演劇連盟理事長になる。
健保+総動員 1938 = 21歳 : 日中戦争が激化するなどして東京オリンピックは中止となり、日本でのテレビの研究も中断、
第二次大戦始 1939 = 22歳 : ソ連でテレビジョン放送開始。
大政翼賛会・1940 = 23歳 : **卒業し、報知新聞社に入社**。
日米開戦 - 1941 = 24歳 : この間、ドイツにおけるナチスの拡大に対応して、FCCが白黒テレビ標準方式決定し、NBCがFCCの免許を受けテレビジョン放送開始。“心理戦争”についての記述が登場するとともに、プロパガンダを行う情報調整局(COI)が設置される。**応召し、岐阜の第68歩兵連隊へ入隊**。
..... 1942 = 25歳 : 国際ラジオ放送VOAも開始。陸軍少尉で中国出征。**新聞統制令で、報知新聞社が、正力松太郎の経営する読売新聞社に吸収され**、
創価学会検挙 1943 = 26歳 : 病気で内地帰還、応召解除になると、千田是也、伊藤道郎らと{太陽の劇場}運動起こすとともに、**読売新聞社に復社して、社会部付大本営報道記者になると**、
年金+総武装 1944 = **27歳** : 小磯内閣顧問にまでなった**正力の信頼を得**、
敗戦 - 1945 = 28歳 : **“敗戦とともに、得意の英語で、連合軍総司令部(GHQ)担当記者となり**、
新憲法公布・1946 = 29歳 : テレビ研究が解禁になり、NHKが研究を再開。**読売争議が起こるなか、公職追放となった正力に代わり、新社長馬場恒吾とともにGHQ渉外局長を訪ね対策で協議。また、吉田茂首相と初対面、以後親交を深める**。
新憲法施行・1947 = 30歳 : 冷戦開始に対するべく、**トルーマン大統領が「国家安全法」を制定し、独立の機密機関中央情報局(CIA)が設置されると、CIAへ情報提供するようになり**、
極東裁判決・1948 = 31歳 : 敵国に対してだけでなく国民に対しても、**“心理戦争”が重要な戦略として位置づけられるようになり、VOAを強化するVOA法が成立するに対応するように、NHKの囑託にもなって日本最初のニュース解説者となる**。
三大事件・1949 = 32歳 : アメリカの電気学者ドフォーレからトーカー研究者皆川芳造経由で**日本でのテレビ局設立を勧められた正力は即座に引き受け、マッカーサーに公職追放の嘆願書提出するも却下され、読売新聞社を退社**、
朝鮮戦争始 - 1950 = 33歳 : 電波監理委員会発足。アメリカの上院で、**“情報政策の生みの親”と言われるカール・ムント議員が「ビジョン・オブ・アメリカ」演説以降、アメリカの同盟国とくに日本のテレビ放送に、アメリカの技術標準を採用させようとする心理戦略のなか、GHQのラジオ課から招待され**、
独立回復 - 1951 = 34歳 : 電波事情視察のため**渡米、ムント演説の内容を知ると、テレビ計画実現の協力を要請。ムント議員から紹介された要人に、正力の公職追放解除を依頼し、社名を{日本テレビ放送網(株)}と発案して決定され、正力の公職追放解除が実現し、ホールズーセンらテレビコンサルタントの来日に合わせて、NHKを辞任**。
メー-事件・1952 = 35歳 : 原子力研究も解禁になった年、{日本テレビ放送網(株)}が日本初のテレビ放送予備免許獲得、国内の政治的理由もあって、NHKも、アメリカ方式を採用することになって、テレビジョン放送免許獲得し、
テレビ放送始 - 1953 = **36歳** : テレビジョン本放送開始したのに続いて、*{**日本テレビ放送網(株)**}の放送が実現。**マイクロウェーブ借款交渉のため渡米した際、アイゼンハワー新大統領が心理戦を否定するなか、バーノン・ウェルシュから原子力について話を聞くと、正力に伝え、中曽根康弘が原子力平和利用研究視察のため訪米するも、直後に、**
自衛隊発足・1954 = 37歳 : **ビキニ水爆実験で第五福竜丸被曝する事件を読売がスクープ、原水禁運動署名協議会が発足し、たちまち1,000万人に達する事態になるなか、中曽根康弘グループが国会に原子力予算案を提出し、ホールステッドから原子力導入の提案の手紙を受取り、正力と共に、原子力発電を導入するために“毒をもって毒を制する”大キャンペーンを展開**。
55年体制始 - 1955 = 38歳 : **正力が衆議院議員選挙に当選するとともに、読売新聞が招待した{原子力平和利用使節団}が来日し、原水禁運動署名が3000万人に達するなか、{原子力平和利用博覧会}が開催され、日米原子力協定の調印、原子力基本法の制定に至り**、
国連加盟・1956 = 39歳 : **設置された原子力委員会の初代委員長に正力がなると、委員長声明に“今後5年間に原子力発電の実現”の文言を入れて周囲を慌てさせるも、日本原子力産業会議が発足、正力は初代科学技術庁長官に就任。原子力使節団が欧米の原子力事情視察に向かい、イギリスでコールドーホール発電所稼働開始した翌年**、
なべ底不況・1957 = 40歳 : (日本テレビ放送網(株))取締役就任。**東海村第1号原子炉火入れ式が行われ**、
安保闘争 - 1960 = 43歳 :
全国総合計画 1962 = **45歳** : 続いて、よみうりランド建設計画のためアメリカ視察するが、
TV宇宙中継始 1963 = 46歳 : 正力とけんかになり、10ヶ月出社せず。
いざなぎ景気 1966 = 49歳 : 東海村第1号原子炉が **営業運転開始になった**。
美濃部都知事 1967 = 50歳 : 日本テレビ専務取締役就任。
霞ヶ関ビル・1968 = 51歳 : 正力と再度衝突。日本テレビを去る。
ドルショック - 1971 = **54歳** :
日中国交回復 1972 = 55歳 : 財団法人公益法人協会設立。顧問就任。
石油ショック 1973 = 56歳 :
革新大敗北・1979 = 62歳 : 徳高自然保護財団設立。理事長就任。
貿易摩擦問題 1980 = **63歳** :
中曽根内閣 - 1982 = 65歳 :
ジャポ 機壁藩 1985 = 68歳 : **「戦後マスコミ回遊記」を出版して、果たしてきた役割が、初めて世に知られるようになり**、
バブル始・1986 = 69歳 : **最後のアメリカ旅行で、フロリダでゴルフ中に客死した**。